

北アルプス黒部川源流登山



ニタコンサルタント株式会社

辰野 恵 (Tatsuno Megumu)

(総合技術監理部門／建設部門／森林部門)

昨年夏、念願であった北アルプス黒部川源流域の登山に行ってきたのでその体験を報告します。

私は、高校時代登山部に在籍していた時期もありますが、それほど山登りに思い出があるわけでもなく、卒業以来登山らしい登山はしていませんでした。ただ、溪流釣りは趣味の一つであり、休みの日などに剣山山系の山深い溪流には行っていました。

ある日、人づてに黒部川源流域に行けばイワナが爆釣できると聞き、それはぜひ行ってみたいものだという気持ちが湧いてきました。一緒に行きたいという友人も見つけ、満を持して北アルプス登山&釣行の計画を立てた次第です。

折角黒部源流に行くからには日本最後の秘境とよばれる雲ノ平にも行くべきだという声が聞こえてきたこともあり、行程は以下の通りとしました。総延長約 30 k m (往復)、高低差約 1,500mの山旅です。

1 日目

富山：折立登山口→太郎兵衛平→薬師沢小屋（泊） 所要時間約 7 時間

2 日目

薬師沢小屋→雲ノ平と祖父岳→薬師沢小屋（泊） 所要時間約 9 時間

3 日目

薬師沢小屋→太郎兵衛平→折立登山口 所要時間約 6 時間



図-1 位置図

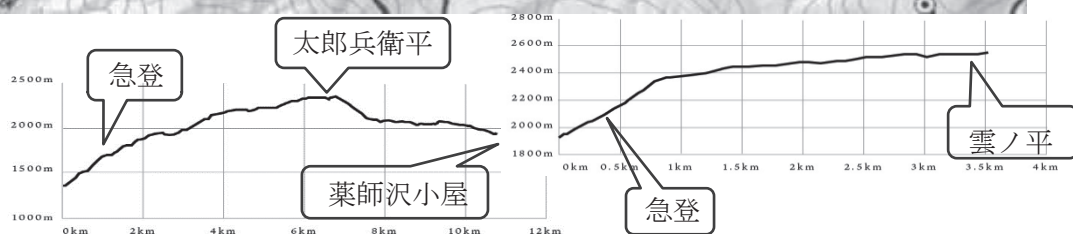


図-2 行程平面図、縦断図

以下、写真とともに報告します。

登山初日

有峰林道を通して登山口である折立から登山開始です。ここから、まずは太郎兵衛平を目指すのですが前半部分がかなりの急登となります。



写真① 折立登山口



写真②

途中、黒部の語源とも言われる黒檜（クロベ）の大木もあります。

樹林帯の中を抜けるころとなると勾配も若干緩くなり見晴らしも良くなりました（写真③）。この付近で今回の登山中、唯一雨に遭いましたが、幸いなことに1時間ほどで止みました。

折立を出て休みながら4時間程で太郎平小屋に到着です。小屋は鞍部に建てられており標高は2,330mあります。ここで、昼食を摂ったりして暫く休憩しました（写真④）。



写真③



写真④ 太郎平小屋

休憩後、太郎平小屋を後に宿泊する薬師沢小屋を目指します。折角登ったのに高低差で約400m下り、黒部川本流と薬師沢の分岐にある小屋に向かいます。途中、遙か彼方に雲ノ平が望め、その手前の谷底付近が黒部川源流と薬師沢の合流部となります。（写真⑥）



写真⑤ 薬師沢小屋を目指す途中、太郎平小屋を振り返る。



写真⑥ 遙か遠く秘境雲ノ平を望む。

登山の下りも結構きつく途中で足がつり往生しました。こんなことで最後まで歩けるのかと不安になりましたがその後は慣れたのか足がつることはなかったです。

薬師沢小屋の手前付近にはカッパが化けて出ると言われる「カベツケが原」があります(写真⑦)。



写真⑦ カベツケが原



写真⑧

ところで黒部川源流域を含む北アルプス一帯を山岳観光地として世に出すのに多大なる貢献をした人物に伊藤正一という人がいます。彼は戦時中ジェットエンジンの開発に携わっていたれっきとした技術者ですが、終戦後は黒部源流一体の山小屋、登山道の整備に大きな足跡を残しました。

黒部源流域には古くからその辺りを猟場とし、熊、カモシカ等の違法狩猟を生計の一部としている一味(山賊)が存在し、伊藤も黒部開発にあたり否応なしに彼らとの付き合いが生まれました。その辺りのくだりを伊藤は「黒部の山賊」という本に纏めていますが、その中に「カベツケが原」のことも出てきます。山賊達によればその辺りでは誰もいるはずのない周辺から夕暮れ～夜にかけて突然「オーイ」という謎の呼び声が聞こえてくるということです。

科学者でもある伊藤にすれば“そんな馬鹿な”と思ったそうですが、その後当人も何度か聞いたことから信じざるを得ない旨が書かれています。その他、深山幽谷での不思議体験がいろいろを書かれていて非常に面白いので皆さんも一読することをお薦めします（写真⑧）。

太郎平小屋を出て休憩も入れて 3 時間ほどでやっと宿泊地の薬師沢小屋に到着です（写真⑨）。ここで、夕食を挟んで念願のイワナ釣りタイムとなるのですが、着いた時点で疲労困憊となり、一応少しは竿を出したものの一匹も釣れないまま早々に諦め、小屋に戻ってテラスでビールを飲んでました。ただ、周りの登山客には私と同じように釣りを目的の一つにしている人も多くいるのには少し驚きました。



写真⑨ 薬師沢小屋



写真⑩ 黒部川源流域

登山 2 日目

もう釣りは諦め、朝食後早々 6 時位に雲ノ平に向けて出発です。ここから暫くは本行程で最大の急登区間です。勾配もさることながら、これが登山道？と思われるような火山由来の角の取れた滑りやすい岩が露出する歩きにくい道です。這々の体で 2 時間ほど登るとやっと木道で整備された緩傾斜の登山道となりました（写真⑪、⑫）。



写真⑪ 歩きにくい急登部



写真⑫ 雲ノ平入口部

徐々に背の高い樹木（オオシラビソ等）もなくなり見晴らしの良い台地状の地形となりました。いよいよ雲ノ平の核心部です。溶岩台地からなる雲ノ平は標高 2,500m以上の高地とは思えないようななだらかさと広さを有し、眺望も抜群で多くの登山客が苦勞してでも来るのが頷けます。周辺はハイマツや池塘、それに火山岩の露頭が絶妙に配置され、まさしく自然の庭園といった雰囲気を醸し出しています。周りを見渡すと黒部五郎岳、三俣蓮華岳、水晶岳といった名だたる名峰が取り囲んでいます。



写真⑬ 雲ノ平の中を山荘へと続く木道



写真⑭ 雲ノ平山荘

雲ノ平山荘で一休みした後、周辺で最も手頃な山頂ということで祖父（じい）岳（2,825m）に登ることにしました。山荘の管理人からはここから 1 時間ほどと聞かされましたが疲れた体には結構きつい登山でした。



写真⑮ 祖父岳を目指す



写真⑯ 途中、後ろを振り返ると雲ノ平の全貌と
その中にあるテントサイトと山荘が見えます。

祖父岳山頂は丸みを帯びた地形で草木はほとんどなく 360° の眺望です。眼下に見える雲ノ平ですが、その地形は太古の昔祖父岳の噴火によって形づけられた溶岩台地といわれています。山頂から南東方向には北アルプスの象徴である槍ヶ岳が見えるはずでしたが生憎その部分だけ雲がかかり、暫く待っていましたが姿は見せてくれませんでした（残念！）。

山頂で薬師沢小屋で作ってもらった弁当を食べ、再び雲ノ平周辺を散策した後、薬師沢小屋まで下山し、本日終了です。



写真⑰ 祖父岳山頂から北西方向を望む。
雲ノ平の遙か向こうには太郎兵衛平と薬師岳。



写真⑱ 祖父岳山頂から南東方向を望む。
鷲羽岳の右側遠方には槍ヶ岳が見えるはずなのですが雲に隠れて見えず。

登山3日目

この日は折立登山口まで帰るだけです。薬師沢小屋を出てピークの太郎平小屋までは比較的緩傾斜の登りなのでそれほど遠いとも思わず到着しました。ただ、そこから折立登山口までの下りが疲れもあってかものすごく遠く感じ、まだかまだかといった感じで登山口の駐車場に着いた時にはほっとしました。この時の気持ちとしては“終わった、絶景だったなあ”と思う反面、疲れから“もうエエわ”というのが正直なところでした。



写真⑲ 折立登山口駐車場

追記

今回、私達が泊まった薬師沢小屋の支配人をしている女性にやまとけいこ（大和景子）さんという方がいます。武蔵野美大卒のイラストレーターでもあることから“やまとけいこく”（山と溪谷）をもじったペンネームかと思いきや本名とのこと。よく出来た話です。

この小屋は、冬期はすっぽりと雪に埋もれることからその重みで小屋が傾くため柱に下げ振りのような傾斜計が付けられていました。

結局イワナは釣れませんでした。小屋のテラスで横に座った方が釣った一匹のイワナを刺身にして食べていて、親しく話をしていると骨に残った少しの身を分けてくれました。甘い感じの美味しい身でした。

初日の折立登山口でクマの目撃情報があるので注意する旨のチラシを貰いましたが、登山中は幸いにも遭遇することはありませんでした。ところが、折立から有峰林道を帰ってくる途中カーブを曲がった所で車の前方を走るクマがいたのです。そんなに大きな個体ではなかったようですが初めて野生のクマを見ました。友人に“カメラ、カメラ！”と言っているうちに道路脇の草むらに消えてしまいました。

登山中、周囲は絶景の連続でした。山にあまり興味のない私が言うので間違いありません。また、主に太郎兵衛平から薬師沢までの登山道脇には途切れることなくリンドウの花が咲いていました。多分、笹を刈り抜いて道をつけている関係で日光が当たるせいかもしれません。道中、癒やされました。



写真㉔ リンドウの花



写真㉕ トリカブトの花

日本屈指の人気登山ルートということもあり登山客が多く、またその中でも折立～太郎兵衛平の間は女性の方が多いのには驚きでした。半数位と言っても過言でないと思います。今回私達が歩いたルートは結構ハードでしたが、ルート選択次第ではそれほどでもない行程も可能です。是非皆様もチャレンジしてみてもは如何でしょうか。（了）